



令和5年4月28日

各報道機関 御中

宮崎大学企画総務部
総務広報課長

宮崎大学のトピックス（4月分）の配信について

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

日頃より本学の教育・研究・社会貢献活動についてご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、本学は地域活性化の中核的役割を果たす大学として日々様々な活動を行っております。その活動の概要は、大学のウェブサイト上にトピックスとして掲載し、幅広く地域の皆様に見ていただけるようしているところです。

そのトピックスを月毎にまとめたものを報道機関の皆様にお配りし、大学の活動を知っていただくとともに、記事として取り上げていただき、より地域の皆様の目に届けたいと思っております。

つきましては、是非一読していただき、取材していただくようお願いいたします。取材にあたっての関係部署との調整・取り次ぎ等は総務広報課広報係にお申し付けください。

敬具

① 発信元

宮崎大学企画総務部総務広報課

TEL : 0985-58-7114 FAX : 0985-58-2886

宮崎大学最近のトピックス（令和5年4月分）

1. 令和5年度宮崎大学入学式を挙行
2. より良い地域医療の確立に一步前進 ～看護師特定行為研修センターがオープン～
3. 農学部関口敏准教授が文部科学大臣表彰に決定！！
4. 令和5年度前学期の授業を開始しました
5. 全国紙朝刊一面にある広告を教育学部永吉准教授が監修
6. みやざき未来研究所 第1回「スタートアップ」を実施
7. 高い実践力とリーダーシップを持った小学校教員を養成 ～ 宮崎県教員希望枠第2期生が入学 ～
8. 大学生が園児に「カラーピーマン」の苗植えを伝授
9. 瀬戸口優乃さんが「2022年度笹川科学研究奨励賞」を受賞
10. 農学部畜産草地科学科学生が「第15回全日本大学対抗ミートジャッジング競技会」で好成績！
11. 宮崎大学学生自治会長が学長を表敬訪問
12. 弥勒祐徳先生から絵画を寄贈いただきました

1. 令和5年度宮崎大学入学式を挙

令和5年4月3日(月)、宮崎市のフェニックス・シーガイア・リゾートシーガイアコンベンションセンター4Fサミットホールにおいて、令和5年度宮崎大学入学式を挙



行し、学部・大学院などに1,369人(うち外国人留学生30人)の新入生が入学。学部新入生を代表して医学部の大森壮真(おおもり そうま)さんが「医学を学ぶ者として、

将来は高齢者がいつまでも健康に暮らせる生活を目指して予防医療を推進し、地域医療に貢献したい。歴史と伝統ある宮崎大学で、素晴らしい先生方の下、仲間達と切磋琢磨し、それぞれの夢や目標に向けて全力で取り組んでいきます」と力強く宣誓し、大学院新入生を代表して農学研究科の石谷碧里(いしたに みどり)さんも宣誓しました。

なお、令和5年度の学部入学生1,055人の内訳は、県内出身者が約35%に対し、県外等出身者が約65%(2022年度63%)を占め、2022年度とほぼ同水準。男女比は、約41%(前年42%)が女子学生となりました。

2. より良い地域医療の確立に一步前進 ~看護師特定行為研修センターがオープン~

令和5年4月6日(木)、宮崎大学医学部附属病院(附属病院)内にある多用途型トリアージスペース棟にて、宮崎県福祉保健部長の川北正文氏、鮫島浩宮崎大学長、菱川善隆医学部長をはじめとする約30名が列席するなかで看護師特定行為研修センター開所式が行われました。



特定機能病院である附属病院は、高度急性期、急性期医療の質向上を目指し、看護師の専門性強化、臨床判断能力の向上、地域包括ケアシステムを推進してきました。そして、令和4年度に、医師業務のタスク・シフト/シェアをさらに推進し、より良い医療の提供を目指して、看護師特定行為研修の指定研修機関としての指定を受けるため申請を厚生労働省に行い、令和5年度から「外科術後病棟管理領域パッケージ」の研修を実施できることとなりました。

開所式後に行われた開講式では、帖佐悦男病院長兼センター長から研修生に対する期待の言葉が述べられ、研修生を代表して寺田克也さん(医学部附属病院看護部 教育担当副看護師長)から、「第一期生として、皆で知識や技術を深め合い、医療や看護に対する想いを

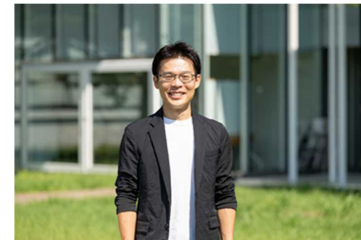
共有し、切磋琢磨しながら研修を乗り越えていきたい」と力強い宣誓が行われました。

研修生は、今後一年間をかけて看護師として勤務する傍ら、e-ラーニングや演習・実習・臨床実習などを受講していくことになっています。所定のプログラムを修了した看護師は、所定の区分において、医師の指示を待たずに手順書に従い、特定行為を行うことが可能となり、患者さんの病態の変化や疾患に迅速かつ包括的に対応できるようになり、患者さんの症状や苦痛の軽減、急変の回避をすることなどが期待できます。

宮崎大学医学部附属病院は、特定機能病院として、県民の皆様の健康増進、安全・安心な医療体制の確立に貢献していくことができるように取り組んでまいります。

3. 農学部関口敏准教授が文部科学大臣表彰に決定!!

令和5年4月7日(金)、文部科学省は「令和5年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 科学技術賞、若手科学賞及び研究支援賞」の受賞者を発表し、関口敏准教授(農学部獣医学科准教授、産業動物防疫リサーチセンター防疫戦略部門長)が、科学技術賞(理解増進部門)において、文部科学大臣表彰を受けることになりました。



文部科学省は、科学技術に関する研究開発、理解増進等において顕著な成果を収めた者について、その功績を讃えることにより、科学技術に携わる者の意欲の向上を図り、科学技術水準の向上に寄与することを目的として、科学技術賞(開発部門、研究部門、科学技術振興部門、技術部門、理解増進部門)、若手科学者賞、創意工夫功労者賞、研究支援賞の4分野で文部科学大臣表彰を行っています。

関口准教授は、家畜伝染病に対する正しい知識と検査の重要性を理解してもらうために、生産者や獣医師、農協の職員等を対象とした出前講座や講演会、パンフレットの作成、配付などの啓発活動を10年以上にわたり取り組み、また安価で簡便な検査技術を開発し、畜産現場に実装したことなどが高く評価され、学術賞(理解増進部門)での受賞となりました。

4. 令和5年度前学期の授業を開始しました

令和5年4月10日（月）、晴天にも恵まれ、前学期の授業が始まりました。もちろん、今春入学したばかりの1年生にとっては、最初の講義で皆さん少し緊張した様子。先週のうちに各学部学科のオリエンテーションが対面式で行われたこともあり、その際に知り合った学科の友人と待ち合わせをするなどをして、講義室に向かう学生さんが多く見られました。



なお、令和5年4月1日以降、学生及び教職員については、マスクの着用を求めないことを基本とすることとなりました。ただし、マスクの着用が効果的である場面などについては、引き続きマスクの着用を推奨しています。登校前の検温や体調等の確認、マスク（不織布マスク推奨）の着用及び手指消毒・手洗い、換気の徹底、身体的距離の確保や換気の徹底など3密回避に努めて原則対面授業を行います。

また、令和5年度の5学部入の新入生1,055人の内訳は、県内出身者が約35%に対し、県外等出身者が約65%（2022年度63%）を占め、2022年度とほぼ同水準。男女比は、約41%（前年42%）が女子学生となっています。

5. 全国紙朝刊一面にある広告を教育学部永吉准教授が監修

この広告は、シール・ラベル用の粘着紙・粘着フィルムや特殊紙などを手がけるリテック株式会社さんの新聞広告を宮崎大学教育学部の永吉寛行准教授が監修し、「十二人一首」という名称で、百人一首をモチーフに、持続可能な社会の実現に向けて生み出している製品や技術を紹介する新聞広告シリーズです。

百人一首の和歌風のキャッチコピーをあしらった絵札のビジュアルで、1年間にわたり月替わりで、日本経済新聞、読売新聞、朝日新聞、毎日新聞、産経新聞等に掲載されることとなりますので、注視していただければ幸いです。

ちなみに、4月13日読売新聞朝刊に掲載された和歌は、あの有名な「由良のとを渡る舟人 ちをたえ ゆくへも知らぬ 恋の道かな」を参考にしているそうです。



6. みやざき未来研究所 第1回「スタートアップ」を実施

令和4年度から、対面形式とオンライン形式を交えたハイブリッド形式でミヤダイミライ塾「みやざき未来研究所」を年10回シリーズで実施しています。

本講座は、少子高齢化や事業承継問題など、地域が抱える課題が多様化するとともに、地域において分野を超えたノウハウの共有・連携などの重要性が高まっていることを背景に、神奈川県理事（いのち・未来戦略担当）を務める宮崎県都市出身の脇雅昭氏が講師・コーディネーターをつとめ、宮崎のさらなる活性化に向けて議論を深めていくことを目的としており、宮崎県や宮崎県工業会、宮崎県商工会議所連合会の後援を受けて実施するもので、学生のみならず一般の方も無料で受講することができます。

令和5年4月17日（月）に実施した今年度第1回は「スタートアップ」と題して本講座のコーディネーターである本学客員教授の脇氏のほかに、株式会社NTTドコモ・ベンチャーズ代表取締役の笹原優子氏をお迎えして参加者と「地域×スタートアップ」について意見交換をしました。

笹原氏は、『イノベーション』とは先入観を取り除いて、時代に合わせた新しい価値を既存のものとは新結合させて作っていく事、またアイデアを出すための発想の筋トレ方法などお話しいただきました。参加者は、いつもとは違う新しい視点から物事を見てみることや、自分の越境体験について積極的に意見交換しました。



7. 高い実践力とリーダーシップを持った小学校教員を養成～ 宮崎県教員希望枠第2期生が入学～

令和5年4月19日（水）、宮崎県内で小学校教員を目指す宮崎大学の学生が参加する「育成プログラム」の一つである「ひなた教師セミナー」の開講式を開催しました。

本セミナーは、宮崎大学教育学部と県教育委員会が連携し、「小中一貫教育コース小学校主免専攻『宮崎県教員希望枠』」の学生を対象に令和4年度から開始された全国的にも珍しいプログラム



で、今年度が2年目を迎えます。

開講式には、1・2年生合計30名の学生と宮崎県教育委員会関係者に列席いただくなかで、藤井良宜教育学部長と宮崎県教育委員会教育次長の佐々木孝弘様から学生に対する期待の言葉が述べられ、学生を代表して増岡直路さん（教育学部1年）から、「教育という未知の世界での学びに不安もありますが、勇気と希望を持って取り組んでまいります」と力強い宣誓が行われました。

開校式終了後、セミナーが開始され、新入生は心に残っている学校の先生の思い出を取り入れながら自己紹介が行われるなど、終始和やかな雰囲気の中で行われ、1期生と2期生の親睦も深まったようでした。

宮崎県教員希望枠で入学した学生は、1年次から宮崎県内の学校現場を視察するプログラムがあるほか、実践的な内容を1年次から段階的に学びます。また、1年間に2回の県教委職員と大学教員とによる個人面談が設けられるなど、きめ細かなサポート体制を兼ね備えた独自の育成プログラムにより、高い実践力とリーダーシップを身につけ、卒業後は本県の小学校教員として、即戦力として活躍することが期待されています。

なお、現在の宮崎県教員希望枠の定員は1学年15名で、2学年で合計30名が在籍しています。令和6年度からは1学年の定員が30名に拡大される予定としていて、本県の教育環境の更なる充実に貢献し、未来を担う若者の育成に寄与してまいります。

8. 大学生が園児に「カラーピーマン」の苗植えを伝授

令和5年4月21日（金）、地域資源創成学部食品科学研究室（指導教員：山崎有美准教授）は、社会福祉法人木花福祉会木花こども園において、宮崎の食を学ぶ「カラーピーマンの苗植え会」を実施し、園児38名が参加しました。

同研究室では、日頃から「食の機能」をキーワードにした教育研究活動を推進しており、この活動の一環として、子どもたちが食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることを学ぶ総合的な教育である“食育”に取り組んでいます。

ピーマンは温暖な気候を好む作物で、宮崎県においては昭和40年頃から栽培が拡大、現在ではその生産量が全国第二位と県を代表する作物となっています。また、ビタミンCを豊富に含む機能性にも優れた作物であるものの、その独特の苦みから子どもには好まれない傾向があります。



そこで、今回は子どもたちにピーマンを育て食べるという過程を通して「食材のありがたさ」や「食べる喜び」を楽しみながら知ってもらい、ピーマンに興味関心を持ってもらう機会とすることを目的として、比較的苦味の少ないカラーピーマンの苗を植えることに。まずは、大学生がクイズ形式を交えながら花の色などカラーピーマンの特徴を説明した後、実際に園に隣接する畑で「何色のピーマンができるのか楽しみ」とわくわくしながら、ピーマンの苗を植えていました。

宮崎大学地域資源創成学部食品科学研究室では、地域の保育園や幼稚園などと連携しながら食育活動を推進し、生涯を通じて、食べる力を養う素地醸成を目指していくこととしています。

9. 瀬戸口優乃さんが「2022年度笹川科学研究奨励賞」を受賞

令和5年4月24日（月）、「2022年度笹川科学研究奨励賞」を受賞した、瀬戸口優乃さん（大学院農学工学総合研究科博士後期課程1年）が鮫島浩学長を表敬訪問し、受賞の報告をしました。

本奨励賞は、2007年度に創設されたもので、受賞者の選考には、単に研究の内容や成果だけにとらわれることなく、研究に取り組む真摯な姿勢や研究遂行のための努力などの研究者としての素質という面も評価される特色ある賞で、2022年度は、7つの研究領域から合計16名に授与されました。

今回の瀬戸口さんの研究テーマは「管理栄養士が慢性腎臓病患者のための低カリウム含有サツマイモを作る」。慢性腎臓病患者はカリウムの摂取制限を行う必要がある一方で、サツマイモを食べたいという患者さんの希望を叶えることができないかと考えたことが、今回の研究のきっかけということです。カリウム含量が比較的少ない品種である「高系14号」と味の良さで人気の「べにはるか」を交配することで、従来のサツマイモよりもカリウム含量が少ない雑種の作出に成功したという研究成果、そして本雑種を基盤として低カリウム含有品種の育種を目指すという姿勢が高く評価されました。



10. 農学部畜産草地科学科学生が「第15回全日本大学対抗ミートジャッジング競技会」で好成績！

令和5年3月1日から3月2日にかけて、東京中央卸売市場食肉市場において第15回全日本大学対抗ミートジャッジング競技会（対面企画）が開催され、農学部畜産草地科学科3年の中原貴之（なかはら たかゆき）さんが豚部門2位に、三島恵美（みしま えみ）さんが個人総合部門で4位に輝きました。この競技会は、食肉格付に関する体験的な学習、および同じ分野を志す学生相互の学術的な交流を通じて、畜産業や食肉産業の社会的役割や魅力に対する学生の理解増進を図り、日本の畜産・食肉産業界の将来を担う人材の養成を目的としたもので、今回は、11大学から合計36名が競技に参加。「部分肉・精肉部門」「豚部門」「牛部門」の3部門のほか、「大学対抗部門」と「個人総合部門（3部門の総合成績による判定）」等が設けられ、4年ぶりの対面式での競技開催に、会場は白熱した模様でした。



宮崎大学からは畜産草地科学科の5名が出場。大学対抗別では入賞を逃したものの（優勝は北海道大学）、個人総合部門で4位に入賞した三島さんは「前回競技会（オンライン開催）において入賞できなかった悔しさがあった。一緒に頑張ってくれた仲間のおかげで、自分なりに納得のいく成績を収めることができた」と満足そうに答えてくれました。本当におめでとうございます。

11. 宮崎大学学生自治会長が学長を表敬訪問

令和5年4月24日（月）、宮崎大学学生自治会の会長を務める板山息己（いたやま いぶき）さん（農学部森林緑地環境科学科4年）が鮫島浩宮崎大学長を表敬訪問し、4月16日（日）に実施した新入生を部活・サークルに勧誘するイベントである「新歓祭」について報告しました。



新歓祭は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて開催を見合わせてきましたが、令和4年度に3年ぶりに開催されています。令和5年度は330記念交流会館のほか教育学部講義棟前にも特設ステージが開設されるなど、より規模を拡大して開催され、67団体が参加。木花キャンパスのメインストリートには、新入生と在学生在で溢れ、熱気に満ちたキャンパスが戻ってきました。

昨年度に引き続き学生自治会長を務めた板山さんからは、「コロナによる行動制限も緩和され、サークル活動が通常通りできるようになったことを嬉しく思います。今年は学生自治会の仲間や学生支援課の皆さんの協力を得て、早めに準備・情報発信をすることができた。多くの人に宮崎大学の魅力が伝われば嬉しい」と述べられ、鮫島学長からは、自身の学生時代の経験に触れながら、部活動やサークル活動の重要性について語られ、「今後も学生活動を全力で応援していきます」と激励がありました。

12. 弥勒祐徳先生から絵画を寄贈いただきました

令和5年4月25日（火）、宮崎県西都市在住の画家である弥勒祐徳（みろく すけのり）先生から、旧宮崎大学教育学部棟（船塚キャンパス）を描いた11枚の絵画を本学へ寄贈いただきました。



弥勒先生は、1980年頃に宮崎大学教育学部の非常勤講師を務めておられ、木花キャンパスへ移転することが決定した後に木造の講義棟などを記録に残すべきと考えられて絵に描いたとのことでした。

今回は、弥勒先生のご子息である弥勒猛（みろく たけし）様と池ノ上克前宮崎大学長とのご縁により今回の本学への寄贈が実現。池ノ上前学長は、「写真とは違うあたたかみのある雰囲気がとてもよく伝わってくる。緑に囲まれたとても良いキャンパスでしたね」と、感慨深く昔を懐かしみ、鮫島浩学長からは「宮崎大学の歴史として大事に残していきたい」と、御礼の言葉が述べられました。